

特別支援学級 学級活動（1）指導案

日 時：令和6年5月21日（火）5校時
対 象：みなみん学級 2～6年生 26名
指導者：小石澤 舞
場 所：プレイルーム

【研究主題】

よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす特別活動
～考え表現することのできる児童を目指して～

1 議題「1年生から6年生が楽しめるお店の工夫を考えよう。」

（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

提案理由 6月26日（水）に全校で「みなみまつり」が行われ、各学級でお店を出す計画があり、みなみん学級からは、「〇〇」の店を出すことになった。そのみなみん学級のお店を1年生から6年生に楽しんでもらいたいと思い、提案した。

2 議題について

（1）児童の実態

今年度の本学級は4年生以上の高学年が半数以上を占めているため、昨年度の学級会での話し合い活動を経験して、話し合うことに慣れている児童が多い。その一方で、新1年生が5名入学し、さらに昨年度の3学期以降に転入してきた児童も4名いるため、話し合い活動の経験がほとんどない児童もいる。このように、話し合い活動に慣れている児童とこれから基礎を学んでいく児童との差が大きいという実態がある。そこで、話し合い活動の経験の少ない転入児童には、今まで積み上げてきた児童の様子を参考にさせながら基礎を学ばせていく。昨年度経験した高学年の児童には、更なるレベルアップを図るため、6年生を中心とした司会グループを発足させ、できる部分は自分たちで話し合い活動を進めていけるような体制作りを行っていく。

入学して2か月足らずの1年生にとっては、話し合い活動や集会の経験がないため、話し合っている内容のイメージがもてず、何について話しているのかが分かりにくいという現状がある。さらに、内容のよく分からないことを静かに座って聞くということも、1年生にとっては大変難しいことである。そこで1年生については、今回のみなみまつりに参加して集会のイメージができてから話し合い活動に参加することとした。そのため、今回の授業は2年生以上の児童が行うこととなる。

昨年度も、2年生と仲良くなるためのお店の工夫を考える学級会と実際に招待をするための準備の経験をしているので、今回の「みなみまつり」でのみなみん学級のお店のイメージはつきやすいと考えられる。対象が「2年生」から「南田中小学校の全員」に広がったことを意識させれば、活発な話し合い活動が展開されることが予想される。

（2）議題選定の理由

6月22日（水）に全校で「みなみまつり」が行われる。2年生から6年生までの各学級でお

店を出してみんなで楽しむ集会であるが、みなみん学級も南田中小学校の一員として、学級としてのお店を考えて出店する。店は決まったが、1年生から6年生までのみんなが楽しめるお店となるような工夫を考えていく必要があるため、本議題を設定した。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	(ア) みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 (イ) 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	(ア) 学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	(ア) 学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

※ 本学級児童の実態を鑑みたとき、当該学年の評価規準が適切であると考えられる。

4 目指す児童像

本学級では、考え表現することのできる児童を以下の通りと考える。

- ・ 話合うべきことが分かり、自分の考えをもったり、発表したりすることができる。
- ・ 他者の意見に対し、拍手や頷きなどの意思表示をしたり、意見に付け足しをしたりして合意形成を図るなど、互いを認め合うことができる。

5 研究主題に迫るための研究の視点と具体的な手だて

【視点1】人間関係形成	【視点2】社会参画	【視点3】自己実現
違いを認め合い、みんな共に生きていく力	よりよい集団をつくらうとする力	なりたい自分に向けて頑張る力
<p>○ 肯定的な態度の指導、話す・聞く態度の指導（事前）（本時）【視点1】 返事、立つ、「です。ます。」の発表の仕方を徹底する。人の意見や思いを大切するために、「友達の発表を聞くときには体を友達の方に向ける。」ことを意識付ける。「『いいな。』と思った意見に対しては拍手をする。」「頷く」など、反応することの大切さについて指導していく。コミュニケーションにおいて必要なことを指導し、温かい雰囲気や人間関係を築いていけるようにする。</p> <p>○ UDを意識した、思考の手助けとなる板書（本時）【視点1】 児童の思考を教師が可視化・操作化・構造化することで、合意形成に向けた話し合いの流れや考えを捉えやすくする。</p> <p>○ 少人数での伝え合いの場の設定（本時）【視点2】 少人数で自分の意見を伝えることで、「発言する。」「話を聞く。」といった経験を培う。</p> <p>○ 司会グループの設定（本時）【視点3】 司会グループを設定することで、役割を果たそうという責任感を醸成する。</p>		

○ 司会台本の準備、練習（事前）【視点2】 本番にむけて、事前準備・練習を努力する姿勢を養う。
○ 教師の仲介（本時）【視点3】 考えがあっても、うまく伝えられない児童がいた場合には、教師が発表内容を周囲に分かりやすく伝え、児童同士の橋渡しとなる。
○ 本時のめあての設定（本時）【視点3】 児童の実態に合わせためあてをいくつか教師が提示し、自分で選択させることで目標をもって授業に取り組む姿勢をもたせる。
○ 教室掲示の工夫（事後）【視点3】 「学級活動コーナー」として話合いの内容や結果、実践について掲示することで児童の振り返りを充実させ、自分たちのよさや頑張りに気付かせ、自己肯定感を高める。

6 事前の活動

【司会グループの活動】

日時	児童の活動	指導上の留意事項
5月16日（木） 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなが楽しめるお店の工夫を考えよう。」の提案理由を確認する。 司会グループの役割を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が考えた提案理由に、相違や付け足すことがないか考える。 司会1人、副司会1人、記録1人、タイムキーパー1人の役割を分担する。
5月17日（金） 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 日時や場所、ルールなど決まっていることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの決まりを再確認する。
5月20日（月） 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 学級会の計画を立てる。（気を付けることや準備するものはなにか話し合う。） 	<ul style="list-style-type: none"> 司会台本を見て、自分のセリフを練習する。
5月21日（火） 中休み	<ul style="list-style-type: none"> 話合いのすすめ方を確認、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 呼名の仕方や学級会の進め方など最終確認を行う。

7 本時の展開

（1）本時のねらい

自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いて、受け入れたりすることで、1年生から6年生が楽しめるお店を工夫して考えることができるようにする。

（2）児童の活動計画

第3回 みなみん学級 学級会 活動計画 令和6年5月21日（火）5時間目				
議題	1年生から6年生が楽しめるお店の工夫を考えよう。			
提案理由	1年生から6年生がみなみん学級のお店を楽しんでもらいたいから。			
司会チーム	司会 石澤 暖空	副司会 齊藤 葉那	記録 平山 流輝	タイムキーパー 宅島 諒

話し合いのめあて	① 発表するときのきまりを守って、積極的に発表する。 ② 発表をしている友達の方に体を向けて聞く。 ③ 友達の意見と合わせて、より良い意見を考える。 ④ 自分の考えを伝える。	
決まっていること	・ 日時…6月26日(水) 3、4時間目 ・ 場所…みなみん学級の教室 ・ やること… () ←5月15日(水)に決まります。	
話し合いの順序	気を付けること	準備
1 はじめの言葉 2 司会チームの紹介 3 話し合い前の確認 ① 議題 ② 提案理由 ③ 決まっていること ④ 話し合いのめあて 4 話し合い 「みんなが楽しめる工夫」 5 決まったことの発表 6 振り返り 7 先生からの話 8 終わりの言葉	・ みんなに聞こえる声で話す。 ・ 議題や、提案理由を黒板に貼る。 ・ 誰かを呼名するときは、きちんと敬称をつけて名前を呼ぶ。 ・ いろいろな人が発言できるようにする。 ・ 時間に気を付ける。 ・ 先生が書いた短冊を黒板に貼る。 ・ 決まったことが分かるようにマークを付ける。	司会台本 タイマー

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点 ○ 目指す児童の姿(観点)【評価方法】
1 はじめの言葉 2 司会チームの紹介 3 話し合い前の確認 ① 議題 ② 提案理由 ③ 決まっていること ④ 話し合いのめあて 4 話し合い 話し合うこと 「みんなが楽しめる工夫」	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>【議題】 「1年生から6年生が楽しめるお店の工夫を考えよう。」</p> <p>【提案理由】 「1年生から6年生がみなみん学級のお店を楽しんでもらいたいから。」</p> <p>【決まっていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日時…6月26日(水) 3、4時間目 ・ 場所…みなみん学級の教室 ・ やること… () ←5月15日(水)に決まります。 </div> <p>・ 「今は何について話す時間なのか」について、目安の時間を設けたり、教師が助言したりすることで、児童の思考を整理する。</p> <p>・ ①の出し合う場面において、意見が出なかった場合には、隣にいる友</p>

① 出し合う	達と話し合う時間を短時間設けることで、挙手や発言の促しを図る。
② 小グループでの話し合い（くらべる）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②の小グループでの話し合いでは、生活班で自分の意見を伝えることで、「発言する。」「話を聞く。」経験を培うことができるようにする。また、この話し合いでは提案理由を振り返り、「1年生から6年生までのみんなが楽しめるお店の工夫は何か」とすることで、たくさんの意見の中から精選することができる考える。 ・ 自分の意見を言うことが苦手な児童に対しては、「頷き」「拍手」「指差し」など、それを意見として捉えるようにしていく。
③ 全体でまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの最終着地点としては、みなみん学級のみんなで本番までに準備し、1年生から6年生のみんなが楽しめるお店の工夫にしぼること。 ○ 話し合うこと、決まっていることを理解し、提案理由を振り返りながら、話し合い活動に参加している。(知識・理解)【観察・発言】 ○ 自分の意見について発言したり、頷きや拍手、体の向き、指差しで表現したりしている。(思考・判断・表現)【観察・発言】
5 決まったことの発表	
6 振り返り	
7 先生からの話	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終末の助言 ①自分の意見を言えた（意思表示をした）ことへの価値付け ②話の聞き方の価値付け ③次回の話し合いや今後の見通しに向けての意欲付け ・ 授業の初めにたてた自分のめあてが達成できたかどうかを、教師が聞き、本時における自分のめあての振り返りを行う。
8 おわりの言葉	

9 板書計画

まとめる	くらべる	だし合う	第二回 学級会 ぎだい(はなしあうこと) 1年生から6年生が楽しめるお店の工夫を考えよう。 ていあんりゆう(はなしあうりゆう) 1年生から6年生がみなみん学級のお店を楽しんでもらいたいから。
□	□	□	

9 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
5月22日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 次回の学級会に向けての役割分担を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果や課題を振り返ることができるように掲示する。 良かった点や悪かった点を司会チームと共に振り返り、次回への意欲を高める。
5月23日(木)～ 6月25日(火)まで	<ul style="list-style-type: none"> 本番に向けてお店屋さんの準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 協力したり、工夫したりしている児童を称賛する。

10 資料

授業で使用したワークシート等、資料があればのせてください。